小学生(低)礼拝１月②

真の父母様の生涯路程②「悲しみの神様の為に歩まれるお父様」

きょうのお話は「悲しみの神様の為に歩まれるお父様」です。

真のお父様は10歳の頃、お兄さんとお姉さんの病が按手（あんしゅ）祈祷を通して治癒したことから、キリスト教の教会に通うようになり、それ以降、日曜日には熱心に教会学校に通うようになりました。聖書を学び、讃美歌を歌い、そして、人々に幸福をもたらす者になりたいと思い、一生懸命に勉強もされました。

15歳の頃になると、13人の兄弟姉妹のうち5人の弟妹が、わずか一年で次々に亡くなるという悲しみを経験しました。また、家で飼っていた牛や馬、豚、犬が死んだりして、悲しいことがたくさん起こりました。戦争でたくさんの人が殺されたことや、同じ年の男の子が自殺したことを新聞で見て、何故こんな悲しいことがあるのかと、その男の子の気持ちを考えると涙が止まらず、3日間、目がカボチャのようにグチャグチャに腫れ上がるほど泣いたそうです。

それから、真のお父様は「神様は本当にいらっしゃるのか？」「神様が全知全能のお方であるとすれば、なぜ世の中の悲しみを見捨てておかれるのか？」など、必死に祈りました。

15歳の時、猫頭山（ミョドゥサン）という山に登ってお祈りしていた時の話です。

イエス様の復活を祝う復活祭（イースター）を迎える週の1935年4月17日（水）でした。夜中からずっと明け方まで祈っていると、まばゆい光の中にイエス様が現れました。

そして、イエス様は悲しい顔をされながら「苦しんでいる人類のゆえに、神様はあまりにも悲しんでおられます。地上で天のみ旨に対する特別な使命を果たしなさい」というみ言を語られたのです。

それは、苦しんでいる人類を救い、神様を喜ばせるということです。

しかし、真のお父様は、すぐに「はい」と引き受けることはできなかったのです。人類を救い、神様を喜ばせることが、どんなに重大で困難なことか分かっていたからです。そして、真のお父様は、イエス様の服の裾をつかんで泣き続けました。

イエス様と出会った後、真のお父様の人生は変わりました。いつも、イエス様の悲しい顔とみ言が心から離れませんでした。そして、「神の道」を行こうと決意をされたのです。

つらいことがあっても、真のお父様を支えたのは「神様から直接、み言を聞いた」という事実でした。イエス様のみ言は、神様のみ言でした。神様がなぜ真のお父様を呼ばれたのでしょうか？　真のお父様は、「神様を切に求める心、神様に向かう切ない愛があった」と言われます。真のお父様は、たった一人で真理を探し求めていかれたのでした。

真のお父様は、神様と人間との関係を考えました。イエス様に出会って9年目に、真の愛に目覚めたのでした。それは、「神様と人間は親子である。だから、神様は人間の苦痛をご覧になって悲しんでおられる」という答えでした。真のお父様は「かわいそうな神様！」と、祈りながら激しく泣かれました。こうして、真のお父様は、９年間かけて人間が神様と共に幸せに生きることが出来る真理である「統一原理」を解き明かされました。

皆さんがこれから統一原理を学ぶ時に、真のお父様がどのような思いで、親なる神様を悲しみから解放させる為に、原理を解き明かしてこられたのか、その心情や思いを考えながら学んでいける私たちになれるように頑張りましょう。